

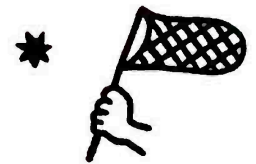
1年間にがんと診断される日本人は101万人に上り、38万人近い人がこの病気で命を落としています。がんは死因のトップで、全体の3割弱を占めています。死亡数は85年の2倍にもなっています。

がん死亡が増えている最大の理由は高齢化です。がんは遺伝子の老化といえる病気で、すから、年齢とともに増えていきます。高齢化の影響を除いた「年齢調整がん死亡率」は年々減少しています。

さて、年代別では、男性は10〜44歳は自殺が死因のトップですが、それ以外のほとんどの年代では、がんが死因の1位を占めます。女性でも、自殺がトップの15〜34歳を除くほとんどの年代で、がんが

がん社会 を診る

中川 恵一



イラスト・中村 久美

働き盛りの死ダメージ大きく

代後半、子宮頸(けい)がんは30代に最も多いからです。がんで死亡する割合は、男性では70代以降、女性では65歳以降は低下していき、100歳以上になると1割にもなりません。心臓病、肺炎、脳卒中、老衰といった、がん以外の病気が原因で死亡する割合が高くなるからです。

がんによる死亡数は年齢と

ら70歳前後までの年代で比率が高いのです。がんは働き盛りで家計を支える患者を襲います。もちろん、家族にも大きなダメージになります。私も義理の妹を48歳の若さで、大腸がんで亡くしました。50歳の死亡と100歳での死亡では、家族に与える影響は全くちがってきます。

こうした悲劇を避けるには、がんにならない生活習慣を心がけ、運悪くがんになった場合でも、早期発見で完治させることが大事です。

人生100年時代と言いますが、「長く、ハッピーな老後」をほむ最大の壁が、がんによる死亡だといえるでしょう。

(東京大学病院准教授)

死因の1位です。

がんが死因に占める割合は、20代では1割前後で、その後、年齢とともに高くなっていきます。男性では65〜69歳がピークで、死亡の6割近くが、がんによるものです。女性の方が若い年代にピークが来る理由は、乳がんは40

がん死亡は死因全体の半分弱を占めます。女性では55〜59

歳がピークで、死亡の6割近くが、がんによるものです。女性の方が若い年代にピークが来る理由は、乳がんは40

ともに増え続けるのはたしかですが、がんが死因となる割合は65〜70歳からは減り続け、他の病気で死ぬ確率が高まっていくというわけです。死因としてがんは、中年か